

変化量 ( $\Delta$ PLT) と術前Vh/eVs との間には,  $\Delta$ PLT/ $\Delta$ Vh/eVs =  $19.9^{(-1.41 \times \text{Vh/eVs})}$  の回帰式で表現される相関関係が認められた ( $p = 0.018$ ,  $r = -0.51$ ). 以上の結果から, 安定期PLT (PLTs) を術後% NR, 術前Vh/eVs, 術前血小板数 (PLT<sub>0</sub>) から予測する式  $\text{PLTs} = \text{PLT}_0 + 0.68 \times 0.174 (0.0459 \times \% \text{NR}) \times 19.9^{(-1.41 \times \text{Vh/eVs})}$  を得た. 予測PLTs と実測PLTs との間には, 強い相関が認められた ( $r = 0.60$ ,  $p = 0.0034$ ).

【結論】術前血小板数, 術前肝脾体積比, 術後壊死率%より安定期血小板増加を予測し得る可能性が示唆された. 今後前向きに本予測式の有用性を検討していきたい.

## 6 非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) における肝内せん断弾性波速度 (SWV) の4次元元的測定

須田 剛士・上村 颯也・土屋 淳紀  
 矢野 雅彦・田村 康・高村 昌昭  
 五十嵐正人・山際 訓・野本 実  
 青柳 豊・長崎 啓祐\*・菊池 透\*  
 川合 弘一\*\*・原田 浩一\*\*\*  
 窪田 智之\*\*\*\*・石川 達\*\*\*\*  
 上村 朝輝\*\*\*\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科  
 同 小児科\*  
 新潟大学医歯学総合病院検査診断学\*\*  
 済生会新潟第二病院放射線科\*\*\*  
 同 消化器内科\*\*\*\*

【目的】NASHにおける音響放射圧を用いたSWV測定の有用性を検証する.

【方法】NASH 30例, 正常 11例に対しSWVを肝4区域で測定し, NASH 18例では1年間隔に2回の測定を行った. 肝線維化の程度は組織学的に分類 (Brunt分類) した. また, 肝障害を認めない679例の検診データを加齢性変化に関する対照とした.

【結果】SWVは肝線維化に伴い加速し (0.36m/秒/ステージ), ステージ0-1と3あるいは4との間に有意差が認められた. NASHでSWVは年

齢と正の相関を示したが (0.014m/秒/年), 正常対照に加齢性変化は認められなかった. アルブミンと血小板はNASH, 検診対照のいずれでも年齢と負の相関を示したが, その減少率はNASHで有意に急速であった. さらに, SWVの経時変化量は, アルブミンと血小板の変化量と正の, ヒアルロン酸変化量と負の相関を示した. 一方, SWVの経時的改善は左葉に, 悪化は右葉に主として生じていた.

【結論】SWVを肝内複数ヶ所で経時測定することのNASH診療における有用性が示唆された.

## II. 特別講演

### 1 International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia (ICGHN) による早期肝癌の病理診断基準から見た, EOB造影MRIによる境界病変の検出および鑑別能

山梨大学大学院

医学工学総合研究部放射線科 准教授

市川 智章

### 2 造影超音波による肝癌の診断と治療の最前線

東京医科大学消化器内科 教授

森安 史典